

【徳島県海陽町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

海陽町は、第3期教育振興計画において、田舎でも学びを止めることなく、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、都会に負けない教育環境を作るためICTを活用した教育を重点施策として掲げ、取り組みを行っている。

技術革新や価値創造の源となる知を発見・創造する人材、技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造する人材、AIやデータの力を最大限活用しながらさまざまな分野に展開できる人材の育成を目指します。

2. GIGA第1期の総括

海陽町は、GIGA第1期以前の平成28年度からタブレット端末を活用したICT教育を実施しており、GIGA第1期においては、そのノウハウを生かして、1人1台環境構築直後から積極的な活用を行ってきた。海部小学校を町のICT推進指定校として指定し、小規模校のメリットである機動力を生かした柔軟なプログラミング教育やオンライン授業等先進的な取り組みを行いコロナ化において、学びを止めない環境を提供することができた。ICT教育推進のための小中学校の先生方にご協力いただき、ICT教育部会を結成し、情報連携を行い、横断的な取り組みを行ってきた。個別最適な学びを目指して、AIドリルを導入し、持ち帰り学習も積極的におこなってきた。教室で授業を受けることが難しい児童生徒には、タブレット端末を活用して、遠隔で授業に参加してもらうなどの活用も積極的に行ってきた。平成28年度当初に構築したネットワーク環境が帯域不足やWi-Fi機器老朽化による遅延など課題点も見られたが、回線増強や最新機器へのアップデートなど海陽町の身の丈にあった整備を行い、少ないコストで最大限の効果があげられていると考えている。

3. 1人1台端末の利活用方策

平成28年度にタブレット端末を導入した当初からしっかり使える端末を整備するといった考えのもと取り組んできたため、当初導入から4年がたった現在でも大きな問題なく安定して使用することができている。今後も文部科学省が示す個別最適・協働的な学びの充実と学びの保障に取り組んでいく。

GIGA第2期においても、国が示す端末の最低スペック基準は、しっかりと意識しながらもしっかりと使える端末を整備することを念頭に、海陽町独自の基準で整備を行う必要があると考える。さまざまな分野で活用が進むAIを活用も意識した端末を整備し、利活用を図っていくことが望ましいと思われる。

GIGA第2期においては、MDMを活用して、端末の利用状況をしっかりと可視化していく必要があることから、MDMについてもしっかりと研究をおこなっていく。